

## カトリック香里教会 待降節第一主日 2020年11月22日

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。) 気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。それは、ちょうど、家を後に旅に出る人が、僕たちに仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているようにと、言いつけておくようなものだ。だから、目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、あなたがたには分からないからである。主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見つけるかもしれない。あなたがたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」 -マルコ13章-

### WATCH (見なさい) - WAIT (目を覚ましていなさい) - WELCOME (ようこそ)

今日は待降節第一主日です。新しい典礼暦の始まりです。(B年)。ふつう、私たちが何か新しいことを始めるとき、人はたいてい「おめでとう」、「お幸せに」、「仕事がうまくいきますように」など、美しい言葉であいさつします。決して否定的な意味の言葉は使いません。しかし、今日イエスは、私たちに祝福するよりも、警告しています。待降節は待つ時ですが、何を待つのですか。待降節の本来のテーマは、クリスマスを待つことではありません。待降節はクリスマスを祝うための単なる準備ではなく、主が私たちに裁かれる主の到来を待つ時なのです。

今日の福音には、2つのキーワード、WATCH(気をつけて)とWAIT(目を覚ましていなさい)があります！明らかに、私たちは主の到来と主の王国の完成を待ち望んでいます。私たちが待つ間、ふたつのことに注意する必要があります。ひとつは、自分の生活の状態を監視することです。ペテロは、「愛する人たち、あなたがこのことを待ち望みながら傷や汚れが何一つなく、平和に過ごしていると神に認めていただけるように励みなさい」と言っています(ペテロ第二 3:11-12、14)。第二に、私たちはイエスが、まさにやって来るその時を逃さないよう、注意深くあるよう招かれています。

多くの場合、イエスは、つつましく、押しやられている人々、圧迫を受けている人々、貧困にあえぐ人々、難民、そして私たちのいわゆる敵のところに、やってこられるのです。私たちが、このように隠された形で来られるイエスを愛することができなければ、やがて来られるイエスを待っても無駄です。希望はありません。貧しい人々と共に待つことこそが、私たちが主のご降誕を待ち望む、私たちの唯一の方法です！

主は「夜」やって来ると警告されている事も注目に値します。花婿のたとえのように、彼は世界が暗闇に包まれ、10人の乙女たちが眠りこんでいたとき、やって来るのです。(マタイ 25:5-6)。現代は、お金、権力、エゴイズムなど、私たちに眠らせ、「愛と憐れみ」というイエスの教えを無視させることができる、多くのことがあります。結局、私たち一人一人が自分に「自分はこの世の様々なことで心を眠らされていないか？」問いかけなければなりません。

待降節は、「私は日常生活の中でどれほど主に注意を払ってきたか」と問うように私たちに招き、試します。確かに、私たちはやがて主が来られるのを待ち望んでいます。その間、私たちはここで、今、自分の生活の中で、主の存在にどれほど注意を払っているのでしょうか？

イエスの臨在に対する私たちの信仰によって、今日、私たちは祭壇の周りに集まり、彼の言葉に耳を傾け、彼の体と血を受け取ります。この信仰が、私たちが目覚めてイエスの到来を待てるよう必ず助けしてくれるでしょう。

クラレチアン宣教会助祭 パウロ・ニューイ